

下村康二作品展 ギャラリートーク

日時 令和3年3月7日(日)

場所 エイブル3階 研修室

講師 下村 康二 さん

「画業50年、私のモチーフと技法」

皆さん、こんにちは。コロナ禍で、今日は何人くらい来ていただくかなと心配しておりましたが、たくさん来ていただき本当にありがとうございます。

お顔を拝見しますと、金子先生をはじめ、先輩方、先生方来ていただきまして、非常に緊張しています。「どんな事を話そうかな」とちょっと不安ですが、私の口からいろいろ出てくると思いますので、聞いてもらえたらと思います。



▲下村 康二さん

今、皆さん、私の手の包帯が気になっておられると思いますが、昨日、飼い猫からひどく噛まれて、二針縫いました。見苦しいところをお見せしまして申し訳ないと思います。大事な時の前にはこんなことがよくありまして。実は、昨年も個展の前日に脚立から落ちまして、左手首を痛めました。個展の前で大変でした。

今日は「画業50年 私のモチーフと技法」ということで、話をさせていただきます。

私は、小学校に入る前に右足首をやけどしました。冬に掘り炬燵に入っていたんですね。うつ伏せになって、漫画本かなんかを読んでいたら、ズボンの裾に火がついて燃え出したんです。足首のところがポウと燃えていたんですね。

たまたま祖母がいてくれて、燃えているところを手で押さえて、消してくれたんですけど。



▲赤胴鈴之助の説明中

その後遺症が結構ひどくて、いまも少し爛れています。爛れただけだったら良かったんですけど、やっぱり筋が引っ張られて、成長が悪いというか。右足首がきちんと曲がりません。

私は、スポーツは好きだったんですけども、この後から、あまり運動しなくなりました。今になってみると「これが私に絵を描かせたのかなあ」というふうに思います。漫画を描くのは小さいころから好きでした。今でもひとつだけ覚えているのが赤胴鈴之助です。

ご存知の方も結構いらっしゃると思うんですけど、これだけは忘れないですね、なぜか。こうして鉢巻をさせたりして描いていました。あとは橋を作ったりプラモデルを組み立てたり。特に模型飛行機を作るのが好きでしたね。飛ばすよりも作るほうがワクワクしていた記憶があります。また、臃げな記憶なんですけど、小学校1年生か2年生の時に画面いっぱいに飛行機を描いて、それが廊下の出入り口の上のほうに貼ってありました。それで、「ああ、貼ってあるな」と感動した記憶がちょっとあります。

小学校のころを思い出して、少し話をしますね。

音楽の成績はあまりよくなかったですね。でも、5年生か6年生の時、東島先生という男の先生が私の歌を褒めてくれました。曲名は『朧月夜』だったかな。自分自身びっくりしました。ただ、その次に別の歌を歌ったら全く駄目だった記憶があります。『朧月夜』だけが、ちょうど私の音域に合っていたんだろーと思います。

それから、体育ですが、火傷して足首がちょっと悪くなったので、かけっこが苦手でした。小学校1年生の頃はリレーの選手にもなっていましたが、高学年になってくるとだんだん遅くなって、走るのが嫌だったですね。ただ運動は好きで、学校で宿題を済ませて家に帰ったら、すぐにソフトボールをしに行っていました。

国語はだめでしたね。だから、こういうふうに話したり作文したりすることは苦手です。

中学校時代の通知表の成績は、美術だけはみんな「5」だったと記憶しています。

鹿島高校では、美術部の顧問は岩永京吉先生でした。岩永先生は鹿島実業高校と掛け持ちで指導されていて、週に一回、放課後の部活動を見てもらっていました。時間的には恵まれていませんでしたが、よく考えるとその1日が非常に貴重でしたね。恵まれすぎて毎日見てもらうよりも、週に1回しっかり見てもらえたのが、かえって良かったのかな。あとは自分で考えて描いていくという、そういった意味では本当に良かったと思います。

もう一つ、岩永先生との思い出を話しますね。私は家が裕福ではなかったから、水彩絵の具を使うときも少し出して、水で薄めて、薄塗りをしていたと思います。あるとき、美術の授業で、岩永先生が「しっかり塗ろう」と絵の具を取って、チョチョっと塗られたら、ものすごく良くなったんですよ。「ああ、さすがだな」と思った記憶があります。

高校2年の時のスケッチ大会で、なにかの賞を貰ったと思いますが、3年生では全く貰わなかったですね。4時間で描くんですけど、場所探しに苦労したという記憶もあります。

また、初めて油絵を書いたのが、高校2年生だったと思うんですけど、15号ぐらいの風景を描きました。でも、その作品は残っておりません。高美展という高校生だけの展覧会があったんですけど、油絵では、3年生の時に特選を頂きました。

「高校デッサンコンクール」というのがあって、2年生の時、鹿島高校からは4、5人しか参加できませんでした。岩永先生が「今から選手を発表する」と言われたとき、「選ばれるかな」と期待していましたが、選ばれませんでした。ショックで涙が出て、後ろを向いたという記憶があります。ただ、ここで選ばれなかったのが、3年生の時に頑張るきっかけになったと思います。2年生ですんなり選ばれていたら、3年生で頑張らなかったかもしれ

ません。ピンチというか屈辱というか、それが発奮材料になって、高校3年生では「デッサンコンクール」で一席を取りました。前の年は、杉光先輩が一席で、私の次の年は、永田君が一席をとりました。だから、鹿島高校は3年連続一席をとるという珍しい記録を作ったと思います。

次に「K教室」の話をしますね。高校2年の終わりごろ、進路をどうしようか迷っていたんですが、自宅の近くに金子先生という方がいらっしゃると聞いて訪ねました。そこからが「私の美術の本当の始まり」と言っていていいと思います。金子先生も大変お忙しかったと思うんですけど、杉光先生を始め、近所のいろんな人たちが毎週土曜日に作品を持ち寄ったりその場でクロッキーをしたりして。大変ありがたかったなと思っています。

そして、大学入試を迎えましたが、その頃は一期校、二期校とあってですね。お陰様で両方の大学に合格したんですけど、美術の方は佐賀大学に特設美術科があるということで、すぐに佐賀大学に行くことを決めました。佐賀大学には石本秀雄先生がいらっしゃいました。その先生の手で「東光会」などに出品していました。大学生の頃は「画題」に悩んだ記憶もあります。今はインターネットなどで、作家の作品や流行しているものを知ることができますが、昔はそういう情報が少なかったです。

卒業制作は、祖母が玉ねぎを筆っているところを描きましたが、あまりいい出来ではなかったと記憶しています。大学の頃の作品は巻いてとっていたんですが、開いたらひび割れていて捨ててしまいました。

次に、教員採用試験の時のことを話しますね。私は作文が苦手で、それだけは嫌だと思っていたんですが、その時の作文のテーマが「私の尊敬する人」だったんですね。それで、すぐ金子先生のことを思いつきました。そうしたらスルスルと書いて、おかげで合格できたと思います。違うテーマだったら駄目だったかもというくらい、作文で表現するのは苦手でした。だから絵を描いたのかもしれませんが。

大学を卒業して、最初の勤務先が金立養護学校（現 金立特別支援学校）でした。そこに9年。巖木高校4年、牛津高校4年、佐賀北高校3年、佐賀西高校9年。そして、また佐賀北高校9年と。教員生活は以上のような流れでございます。

私は、作品をいろんな展覧会に出品しています。1年に5、6回出すことを目標に描いていました。例えば東光展に出したら、次は美協展だとかですね。いつも2点ぐらいは描いていないと落ち着かなくて、なんとか間に合うように頑張っていた記憶があります。個展は、教員をしていた時は何年かに1回ずつ開いていまして、退職してからは、今まで毎年続けています。

教員生活の最後は佐賀北高校でしたが、退職する年の3月末から4月にかけて、「退職記念展」ということで、佐賀県立美術館の4号展示室で開催しました。それに合わせて作った作品集を、今日は皆さんにお渡ししています。それを使って説明しようと思います。

それでは、今日のテーマの「私のモチーフと技法」についてですが、これまでの画題を表にしてみても気づいたことがあります。それは、ころころ画題が変わっているということです。その時々のおもひつきが非常に多くて、牛を描いてみたり人物を描いてみたり。子どもや妻を描いたり川岸を描いたり。

皆さんにお配りしている『下村康二作品集』のはじめの方は自選作品をずっと並べました。最初からちょっと見ていきましょう。



▲『二頭の牛』 1972年

『二頭の牛』を載せていますが、東光展で「船岡賞」をもらった作品です。それから肢体不自由児を描いた作品で、東光展の一席をもらいました。

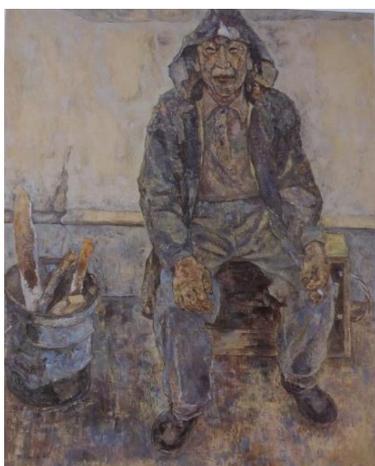
また『静物』も載せています。最近は、リアルに描く作品が流行っているようなところもありますが、こういう作品も描いて



▲『静物』 1979年

みたいと思って描きました。アクリルで写實的に描いていますが、1979年の作品で、大作としてはこの一枚だけだと思います。私としては珍しい作品です。

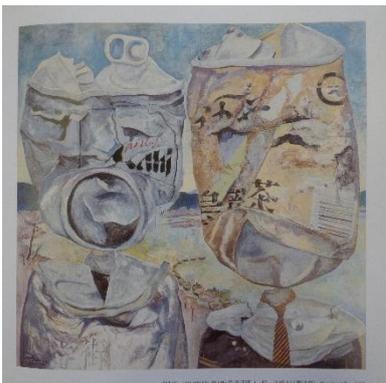
そのあとに「鮒市シリーズ」の何点かを並べています。



▲『鮒市の人 I』 1991年

最初は『鮒市』をずっと描いていたんですけど、『鮒市』は、1月19日だけなんです。1月19日が待てなくて「似たような題材がないかな」と呼子の朝市に出かけました。それで『朝市』を描いたり『鮒市』を描いたり、同じ市シリーズで何点かずっと描いています。

技法的なことになるんですけども、例えば『鮒市の人 I』を見て何か気づかれないでしょうか？普通はキャンバスの白地の方に描くんですけど、これは裏地に描いています。塗り方も薄い。あえて「裏地に描いてみよう」と実験みたいな感じでですね。学生の頃の話じゃないですが、「絵具代が節約できんかな」とか「裏地の色を、そのまま使えないかな」とか考えて、何点かこういう描き方をしています。キャンバスの裏地は絵具の乗りが悪いですが、白い方に描くのと違って、面白いと言えば面白いですね。描いたことがない方は、一度描いてみてください。また、同じ「朝市シリーズ」でも背景には苦労しました。人物はなんとか描いていくことができますが、背景に何を描いたらいいのか、どんな処理をしたらいいのか、どんな色で塗ったらいいのかですね。どんなマチエールがいいのか、結構苦労しました。背景はなかなか難しいです。



▲『叫び』 1994年

次に「空き缶シリーズ」になります。一時期、体重が増えて「運動しなさい」と言われて散歩を始めました。そうしたら空き缶の潰れたのが所々に転がっているんですね。最初は形や色が面白いと思って何個か集めていたんですけど、あるとき、缶が人物に見えたんですね。なんか言っているような人間の顔に。それで「空き缶シリーズ」が始まったのが1994年です。『叫び』という作品で、県展で一席を貰いまして、その後「空き缶シリーズ」を続けることになります。この「空き缶シリーズ」は、「朝市シリーズ」と並行して描いたり交互に描いたりして、気分転換という

意味でも良かったと思います。

それから「廃屋シリーズ」というのがありますが「墨を使った作品も描いてみたい」という思いがずっとあって、最初に墨を使って描いたのが『蓮』です。1994年、佐賀県美術展日本画部門で入選した作品です。

その後、2006年から「廃屋シリーズ」が始まるんですが、第15回青木繁記念大賞公募展で奨励賞をもらいました。第1回から第14回まで毎年のように応募していましたが、それまでは全て落選でした。結構難しい公募展だったので「また落選するなら、全然違うのを描いてみよう」と、新しい試みの『廃屋』を出しました。

これは技法が先に思い浮かびました。まず、全体を黒い墨やペンキで塗ってから、その上に揉んだ和紙をボンドで貼ったんですね。それを所々破いてみました。黒い線みたいな所は、わざと引っ搔いて破っています。全く私の思いつきですが、この技法はどんな題材に使えるだろうかと考えていました。



▲『蓮』 1994年



▲『廃屋』 2006年

私は、面白いと思うものがあったら写真を撮ってパソコンに入れているんですが、その中に「廃屋」があってそれを描きました。そうしたら、落選続きだった公募展で奨励賞をもらったんですね。一番下の賞ではあったんですけど、そこから墨を使った「廃屋シリーズ」が始まります。

最初は、ほとんど白黒で描いていたんですけども、油絵で描いたらどうかとかキャンバスに描いたらどうかとか考えまして。今は、墨、油絵、アクリル



▲『廃屋 2008-4』
2008年

▲『廃屋 2010-2』
2010年

と、同じ題材でも違う描き方で「廃屋シリーズ」を続けています。また、退職してから富士山を描きに行ったりイタリアに行ったりして描いています。



▲『春暁富士』 2013年



▲『想』 2018年



▲『凝視』 2016年

あとは「象のシリーズ」ですね。床の間コーナーに展示している以外に何点か描いています。カバも描いていますが、背景をどんな色にするかが結構悩みました。これは金色を塗っていますね。

それと「屈折の像シリーズ」です。昨年の個展にも出したんですけど、福岡のマリンワールドの水槽に発想を得ました。マリンワールドに行った時、水槽の向こう側の人物が歪んで見えたので、それを写真に撮っていました。そして、描き始めたのが2015年くらいかな。しばらくやめていましたが、また去年くらいから描き始めまして。2015年の作品ですかね。最初の作品です。一人の人物ですが、繋がって見えるのが面白くて「しばらく続けたいな」と思っている画題です。



▲『屈折の像 2015-1』 2015年



▲『生 2019-2』 2019年

あとは『アコウの木』ですね。これはガジュマルとも言うんですかね。沖縄に行った時に「非常に面白いな」と思って2点ほど描きました。



▲『佐賀のクリーク』1986年

次に、デザインを載せています。県展に出したデザインは、出品前の2、3日で描き上げています。賞を貰いました(1982年から1999年までほぼ毎年出品で入賞多数)が、気楽に描いたのがよかったのかもしれないと思っています。版画も時々やっています。一版多色の木版画や普通の一版一色の木版画ですね。それから彫刻も県展に出しました。



▲『画家の首』1989年

作品の最後は「陶芸」ですね。

若い時はあまり興味がありませんでした。金立養護学校に赴任したときに、機能訓練といって、手指の訓練で陶芸がありました。それで、夏休みに一週間くらい、嬉野の窯元に行って主に「菊練り」と「ろくろ」を習いました。それが役に立って、佐賀西高でも生徒に作らせました。

焼き物は、奥が深いですね。釉薬のかけ方とか焼く温度とか、大変だったんですが、非常に勉強になりました。その後、退職してからは神埼にある陶芸教室にしばらく通いました。



▲コーヒーカップ (床の間コーナー展示作品)

4年くらい前に自宅のアトリエの隅に電気窯を置いて、今までに本焼きを32回くらいしています。年間10回弱くらいは焼いていますね。焼き物は、非常に奥が深くて面白いですね。やり方によっていろんな事が出来て、食器を作ったり動物を作ったりですね。レリーフや人物も作ってみたいと思っています。

最後に、これからのことですが、絵の方は描きたいときに描きたいものを、描きたい道具で気の向くままに描いていこうと思っています。また題材が変わるかもしれないし、その時の気持ちでやっていこうと思っています。

焼き物の方も、まだやっていない技法、面白いなと思う技法をやってみてみたいです。昨年は化粧土をかけるのが面白く、結構化粧土をかけて制作しました。

それから、ずっと続けているのがテニスとボウリングです。どちらも週1回やっています。「ボウリングの日」が私の誕生日なんですけど、ボウリングは4、5年前から始めました。ボウリングも奥が深くて「上手くなったな」と思ったらガタッと下がるんですね。しかし、そこがやりがいがあるというか、健康のことも考えながら楽しみたいと思っています。

今日は思いつくままいろんな事を話しましたが、ご清聴ありがとうございました。